OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Public Domain Softwares
Author(s)	山口, 英
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1989, 74, p. 21-25
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65840
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

Public Domain Softwares

大阪大学基礎工学部情報工学科 山口 英[†]

1 はじめに

Public Domain Software(以下 PDS)とは、アプリケーションプログラムの作者が著作権を放棄し、無料で公開・提供するソフトウェアである。このようなソフトウェアは現在ネットワークニュース, BBS, 各種のユーザグループなどによって広く配布されている。このため、PDS をネットワークを利用して Email や BBS などで配布したり、気軽にコピーをしたりすることが多く行われている。また、入手可能な PDS の数は非常に膨大であり、これらのソフトウェアの中には商業ソフトウェアと比較して非常に質の高いものが多くある。このため、PDS をインストールして利用することが非常に一般的に行われている。本稿では、PDS とその配布形態、利用の注意点等について述べる。

2 PDS とは

PDS とは、アプリケーションプログラムの作者が著作権を放棄し、第三者による配布・改造等を自由に行うことを認めたソフトウェアを指す。このようなソフトウェアを入手した場合、利用者はほかの利用者に対してコピーを提供したり、そのソフトウェアの一部を他のソフトウェアで使用したり、オリジナルを改造したりすることを自由に行えることになる。

PDS と似たものとして Freeware と Shareware と呼ばれるものがある。Freeware は、作者が著作権を放棄せず、著作権法に基づいた全ての保護を受けると共に、配布・改造の制限をつけて無料で提供するソフトウェアを指す。一方、Shareware は、試用は無料だが気に入ったらそのソフトウェアの代金を払うというものである。これらは本来 PDS には含まれない。さらに、無料で提供されるソフトウェアとしてサンプル版やβ版と呼ばれるものがある。これらは企業が開発している段階で提供されるもので、機能を大幅に縮小したり、バグがあること'を明記したバージョンである。これらの本来の PDS とは異なったものまでが無料で公開されるようになり、最近では、Freeware や Shareware 等を含めて PDS と呼ぶことも多く、多くの誤解を招いている。

さらに、最近では PDS にすることによって各種の改造が行われ、いろいろなバージョンが発生してしまい、どれがオリジナルのものかが分からなくなるといった問題も発生している。このため、

[†]yamaguti@osaka-u.ac.jp

オリジナルでは無かったバグが混入したり、正しく機能しなくなったりすることにより、オリジナルの作者の名誉を傷つけたり、配布を受けた人が不利益を被ると言う問題が起こることがある。このため、ソフトウェアを公開する場合、作者がPDSではなく、Freewareとしてソフトウェアを提供することが多くなってきている。このようなソフトウェアでは、作者が著作権を保持していることを明記し、配布・改造を行う場合の条件を付していることが多い。このようなソフトウェアの代表的なものとしてGNU Emacsがあり、これらには次のような条件が付けられている。

- 作者は著作権を放棄しない。したがって、ソフトウェアは著作権法に基づく全ての保護をうける。
- GNU Emacsは無料である。
- 配布はGNU Emacs一般公的使用許諾[1]に記載されている方法でのみ行える。

このようにすることにより、作者の権利を守ると共に、オリジナルの再配布を制限しないことを狙っている。

3 配布形態

現在のPDSの配布形態としては、次のものを挙げることができる。

- ネットワークニュースやBBSによるオンラインの配布。
- フロッピーディスクやMT、カートリッジテープの郵送による配布。

これらの配布方法には次のような特徴が有る。

- オンラインの配布
  1. 即時性がある。
     開発されたソフトウェアが直ちに入手することができる。また、そのソフトウェアに関する情報もすぐに手に入れることができる。
  2. 過去に配布されたソフトウェアを入手するのが困難。
     一般のニュースシステムでは、記事は一定期間たった後消去されるために、過去に配布されたソフトウェアは、それを保存しているサイトから配布してもらうしかなく、入手が困難になることが有る。また、どのようなソフトウェアが流れていたかを知る方法が無い場合、目的のPDSを発見するのは容易ではない。
  3. 配布時のトラブルが有る。
     配布時に何らかのトラブルによってソースファイルの一部が欠落したり、データファイルが流れていなかったりすることがあり、インストールできないことがある。
  4. ウイルスの危険性。
     MS-DOSやMachintoshのためのソフトウェアは実行形式がそのまま配布されること

が一般的であり、このため配布されているものがウイルスに感染している危険性がある。また、そのソフトウェアが悪意のプログラムではない保証をすることが難しい。

- テープ郵送による配布

  1. 目的のソフトウェアを見つけやすい。
     多くの場合、配布されるソフトウェアのリストが付けられており、必要なソフトウェアが含まれているかどうかを調べることは容易である。
  2. 信用できる。
     オンラインの配布と比較してファイルの欠損や、ウイルスの感染の危険性が少なくなる。
  3. 入手に時間がかかる。
     郵送による配布のために、入手にはそれなりに時間が必要となる。また、入手先が遠隔地、特に海外の場合には入手のための郵送の費用や時間が大きくなるという欠点が有る。

具体的な前者の例としては、JUNET, USENETにおけるネットワークニュースの利用による配布を挙げることができる。JUNET, USENETにおいてはPDSの配布のためのニュースグループが用意されており、表1に示したニュースグループが使われている。例えば、`comp.souces.unix`はUNIXに関連したPDSのソースプログラムの配布のために使われており、`fj.binaries.msdos`はMS-DOS上で稼働するPDSの実行形式を配布するために使われている。また、Moderatedとなっているニュースグループでは、Moderatorと呼ばれるそのニュースグループの管理者がおり、管理者は投稿されたソフトウェアの配布キットに不足が無いか、正しく動作するかなどをチェックした後、ニュースを配布するという作業をしている。このため、Moderatedとなっているニュースグループに流されたソフトウェアはそれ以外のニュースグループに流されたものよりも信頼性が高いと考えることができる。配布はニュースの記事としてソースプログラムを投稿したり、実行形式にされたアプリケーションを特別のツールを用いて圧縮したものを投稿することによって行われている。これらを利用する場合は、ソースプログラムの場合はソースプログラムを記事の内容から取り出し、各計算機でコンパイルして利用することになるが、圧縮された実行形式の場合は、圧縮に用いたツール群を利用して元の形式に戻す。実行形式の圧縮に使われるツールは広く配布されているものを利用することが多い。

さらに、オンラインの配布形態としてはAnonymous FTPによる配布も行われている場合が有る。これは、特定の計算機で、不特定多数に対してのFTPのサービスの提供(Anonymous FTP)を設定し、直接その計算機に対してFTPを行ってソフトウェアを入手する方法が有る。Anonymous FTPによるソフトウェアの配布は米国ARPA Internetでは一般的に行われており、多くの計算機でAnonymous FTPの設定がされており、各種のソフトウェアを入手することができる。例えば、GNUソフトウェアもAnonymous FTPによって公開されており、現在`prep.ai.mit.edu`という計算機上に全てのソースファイルが格納されている。他のサイトではAnonymous FTPを利用して、直接FTPによってソフトウェアを入手することができる。

一方、後者の例としては、いろいろなユーザグループによるPDSの配布を挙げることができる。現在多くのユーザグループが有り、これらのユーザグループでは会員に対してPDSの配布のサービスをしていることが多い。これらのPDSは、そのユーザグループが対象としている計算機でのみ利用

News Group	*Contents*	*Moderated*
comp.binaries.amiga	Encoded public domain programs in binary.	○
comp.binaries.atari.st	Binary-only postings for the Atari ST.	○
comp.binaries.ibm.pc	Binary-only postings for IBM PC/MS-DOS.	○
comp.binaries.ibm.pc.d	Discussions about IBM/PC binary postings.	
comp.binaries.mac	Encoded Macintosh programs in binary.	○
comp.sources.amiga	Source code-only postings for the Amiga.	○
comp.sources.atari.st	Source code-only postings for the Atari ST.	○
comp.sources.bugs	Bug reports, fixes, discussion for posted sources	
comp.sources.d	For any discussion of source postings.	
comp.sources.games	Postings of recreational software.	○
comp.sources.games.bugs	Bug reports and fixes for posted game software.	
comp.sources.mac	Software for the Apple Macintosh.	○
comp.sources.misc	Posting of software .	○
comp.sources.unix	Postings of complete, UNIX-oriented sources.	○
comp.sources.wanted	Requests for software and fixes.	
comp.sources.x	Software for the X windows system.	○
fj.binaries.mac	Encoded Macintosh programs in binary.	
fj.binaries.misc	Encoded programs in binary not covered elsewhere.	
fj.binaries.msdos	Encoded MS-DOS programs in binary.	○
fj.binaries.msdos.d	Topics on softwares posted to fj.binary.msdos.	
fj.sources	For the posting of software packages & documentation.	
fj.sources.d	For any discussion of source postings.	
fj.sources.mac	Software for the Apple Macintosh.	

表 1: PDS配布のためのニュースグループ

可能なものだけを配布していることが多く、例えばSUG(Sun User Group)でもSUN Workstationで利用可能なPDSを中心に会員に配布のサービスを行っている。

4 利用の注意点・ルール

多くのPDSは作者の好意によって配布されているものが多い。このため、次のような点に注意して利用するのが望ましい。

- 全てのPDSが、全ての権利を放棄しているわけではないので、作者がソフトウェアに配布・利用の制限事項をつけている場合は、それを尊重するようにする。
- 作者が誰であるか、どこに配布されたかなどの情報を消去しないようにする。これは、再配布された先で作者に連絡をとりたい場合などに重要な情報となる。
- 改造したものを配布する場合は、もともとの作者名などを明記し、オリジナルのPDSが何であるかを明らかにする。
- バグなどを発見した場合は積極的に作者に連絡する。また、使用レポートや意見なども作者に送ることが望ましい。さらにデバッグした場合には、どのような問題が有って、どのよう

な対処をしたかを作者に連絡する。

- 作者に対してバグ情報の提供や各種のサポートを強要しない。

5 おわりに

現在利用可能なPDSには非常に質の高いものが数多くあり、例えばUNIXではPDS, Freewareなどを組み合わせることによって、有料の商業ソフトを利用するよりも効果的な環境を構築することができる。これも多くの人々の善意のうえに成り立っているものであり、今後ともPDSを提供している多くの人々に感謝する共に、多くの人々がPDSの提供・改良などを通してより良いPDSの文化を形成していくことを願う。

References

[1] Richard Stallman, "GNU Emacs Manual," Six Edition, Version 18, Free Software Foundation, March 1987.